

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部 国際教養学科

学年：3年生

留学先大学：ヨークセントジョン大学

現在の学期：春学期

時間割：

| 曜日 | 履修科目名・時間等 |
|-----|---|
| 月 | PERSONALITY AND INDIVIDUAL DIFFERENCES(LECTURE)(13:00-15:00) |
| 火 | UNDERSTANDING CHILDHOODS(GENERAL TEACHING)(10:30-12:00) RESEARCH METHODS AND STATISTICS(LECTURE)(12:30-14:30) |
| 水 | 休み |
| 木 | RESEARCH METHODS AND STATISTICS(WORKSHOP)(10:30-12:00) UNDERSTANDING CHILDHOODS(GENERAL TEACHING)(15:30-17:00) |
| 金 | PERSONALITY AND INDIVIDUAL DIFFERENCES(WORKSHOP) (13:00-14:00) |
| 土・日 | 休み |

履修科目や近況について

この文章は本大学、もしくはイギリス、ヨーロッパに留学したい人向けに書きました。体験記としても読めると思います。

体験記としての体裁を保つため、過ごした場所を基準に項目を作りました。

大学、寮、街、遠出、その他の順になっています。

また、お読みになる際は、一般化を目指したものではありませんことにご留意ください。

大学

本大学は広範な学問領域をカバーする教育機関です。リベラルアーツに分類される学部に所属する方にとっては、自分の興味を深める点において様々な選択肢が用意されていると言えます。ただ、専門的な内容を学びたいのであれば、日本の大学でその専門の関連単位を取得するなど事前準備が必要です。履修科目の内容をご覧になれば分かる通り、私は学部1年生の心理学を中心に学んできました。

履修の希望調査は12月に行われ、1月に公開されました。派遣プログラムに参加されている他の方と比較すると遅かったです。私は心理学を希望していたのですが、希望が通らず打ちひしがれていました。しかし、変更希望のメールを送ったところ変えていただくことができましたし、渡英してからも履修を変更するタイミングはありました。た

だ、枠が空いている保証はないので、気になる場合は早めの行動が良いかもしれません。

本大学ではレジュメ(PowerPoint)が前の週に上がります。日本の大学に通っていると予習という文化に触れることは少ないかもしれませんが、本大学には予習の文化があるようです。「何年生の講義を受けるか」や、「自身の専門とする学問の講義か否か」という要素もありますが、心理学を専門としない私にとって予習は必須でした。その一方で、基本的な知識が多かったので、予習をすれば授業で困ることは少なかったです。また、統計分析の授業ではSPSSを利用する課題が出されました。留学の目的に応じて取る授業は考慮するべきだと思いました。

予習に加え、授業外学習も存在します。基本的には Reading list に載っている学術書や論文を読み、理解を深めるものです。言葉を変えると、大学の授業で概念に関する問いかけを行い生徒間での意見交換や基本的な知識確認をしたのちに、授業外学習で学術書の知見を確認するシステムを取っています。授業によって Reading list から最終課題を作ることを求めるものや、全く読む必要はないと公言する授業などまちまちですので、第一週の授業を受けてから履修を考えるのも一つだと思います。

合計の負担に関してですが、私個人の体感としては大学でターム 1・2(4・5)合わせて 10 単位取っているくらいの感覚でした。ターム 1・2 を合計したのは、本大学が春・秋学期制を採用しているからです。

各講義は大まかに本講義とセミナー(ワークショップ)に分かれています。本講義では講義における重要な内容を取り扱います。セミナーの使い方は各授業によって違いますが、本講義の補足や課題のグループワークに充てる講義が多かったです。成績評価の基準は日本の大学の各評価(秀、優、良、可)から -20 点したものだだったので出席する必要はないですが、先述の通り本講義の補足も行われるので参加することが推奨されています。言い方を変えれば、本講義では大人数授業を行うことで生徒の土台を作り、セミナーでは少人数授業を行うことで生徒の理解を深めるイメージです。構成は凝っていますが、その分取得単位は減ってしまいます。

私たちの大学と共通している点としては、Moodle を使う点が挙げられます。授業の資料は基本的に Moodle にあがるので、大学と同じ感覚で授業を受けられます。本大学の特徴的な点としては、大きく分けて専用のアプリで出席を取る点と、Padlet という掲示板を使う点があります。出席は、授業開始時に教室にて表示されるコードを専用のアプリに打ち込んで取ります。よく考えられていると思いますが、残念ながら成績評価の内訳には加算されていませんでした。そもそも、出席は出席しない人に単位を与えないためのシステムなので当然ではあります。その一方で、授業を休んでも後日音声のみのファイルが Moodle にあがります。点数でざっくり切ってしまうせいか、欠席者に手厚い支援があるのが興味深いです。掲示板に関しては、Moodle や授業資料にリンクが掲載されていて、授業中に使います。2 時間ある本講義で教授がずっと話すのは疲れてしまうのか、各本講義につき一回か二回は生徒同士のディスカッションの時間があります。掲示板はそのアウトプットに使います。匿名性が担保されているので悪用しかされていなかった

ですが、教授はお構いなしのようです。ここまで読んだ方は本大学の授業治安は悪いのではないかと思われるかもしれませんが、日本の大学と然程変わりありません。実際、講義中は基本的には静かですし、たまに発言を求められる生徒の発言内容は理にかなっています。

キャンパスは西千葉キャンパスの六割程度の広さですが、その分寮からのアクセスは良いです。25分も歩けば確実に教室に着くことができました。ただし、授業が小教室で行われる場合、辿り着く道中で扉を何回も押さなくてはいけないのはストレスかもしれません。図書館もあります。日本と授業形態が違うせいか、人数比を鑑みても混んでいることは少ないですし、静かです。

本大学に関連して、私が一番良かったと思っているのはそのサポートの手厚さです。本大学には留学生専用の係があるのですが、その係の方に伺えばレポートの書き方から生活のことまで適切な係の人のところまで案内してもらえます。教授の方も優しく、メールでも対面でも質問すると優しく返していただけました。日本でも留学生の方はたまに見かけていましたが、実際自分が留学生の立場に立つと支援があることは心強かったです。

寮

私は Limes Court というところで過ごしていました。現在、留学生が過ごす大学の寮としてはもう一つ The Grange があります。情報を見る限りでは後者の方が過ごしやすそうですが、前者で過ごしたことで不便を感じたことはありませんでした。見た目は両舎共にレンガ造りで風情があります。

一棟につき 5 部屋あり、敷地内に約 30 棟が円状に配置されています。奇数棟と偶数棟で左右対称の構造が取られており、各棟の一階にトイレ兼シャワールーム(以下バスルーム)、とキッチンと 2 部屋、二階にバスルームと 3 部屋がありました。男女共用です。

入寮当日、フラットメイトに一階のバスルームが壊れていると言われました。私は二階に住んでいたのですが、なぜか二階のトイレも壊れていました。修理の方が来るまでは大学のトイレを使いました。

シャワールームは人 2 人が入れるくらいのスペースで、シャワーが一本置いてあります。温度調整の目盛りが 1~9 まであるのですが、適性は 4~5.3 の間のみです。しかし 9 は 90°C ではありませんでした。水圧に関してはやや弱いですが、イギリス内で比較するならば普通だと思います。

キッチンとバスルーム、ランドリィは共用です。会話を期待された方もいるかもしれませんが、寮棟次第と言えます。私の場合はなかったです。逆に初日から仲は良くなさそうでした。基本的にはキッチン、バスルーム、自分の部屋を行き来する生活です。

「風呂後は髪の毛を掃除してください。Thank you:）」、「夜は寮棟の鍵を閉めるように。Thank you.」などといった文言が紙やホワイトボードに書かれて随所に貼られており、会話代わりになっていました。勿論自主的に話せば会話はできます。

ここからも推測できるように、集団の和を乱さない限り、生活は自由です。規則は同調のためではなく、一定の自由を保障するためにあるイメージです。その一方で、ゴミ

箱や三角コーナーのゴミ、トイレットペーパーの芯は溢れていました。一定の自由を保障する規則は基準を設けられないものには弱いみたいです。

自分の部屋に関してですが、メモ用のホワイトボードは置かれていませんでした。ヒーターは付いていました。ハンガーは 10 本ほど準備されていました。引き出しは大きいのが 4 つ、小さいのが 2 つあります。ベッドは敷布団、掛布団、枕込みで全て用意されていました。ぬいぐるみはありません。

私の寮棟は春学期の始まりには 4 人が暮らしていました。それがいつの間にか 5~6 人が生息しているようです。お陰様で賑やかで、寂しすぎて気分が沈むということはないのですが、匿名性が上がる分民度は下がってしまいました。具体的には物の消費が早かったり、火災報知機のなる頻度が上がったり、深夜に咆哮が聞こえてきたりと多岐にわたるので、人によっては生活に支障が出るレベルだと思います。「寮棟の鍵の意味はどこへやら」とも思うのですが、大学生も多様だということです。対応方法は様々あると思いますが、私はぐっすり寝ることで対応しました。

街

街は基本車通りが多く、車社会を彷彿とさせていました。また、レンガ造りの家が多く、少し歩くだけで色が変わり、風情があります。地下に埋まっている家や、多くの家にあつたドアノッカーが印象的でした。庭の付いている家が多く、門扉が解放されていたり、カーテンがから空気で生活感丸出しだったり、大学に行くまでの道のりでも十分にその平和さを実感させられます。

2~3 時間も歩けば、街の様々な場所を見ることが出来ます。観光名所としては、ヨーク・ミンスター、電車に関する博物館、有名なチョコレートのお店などがあります。お店を巡りたい場合、中心街に出ると商店街のような形でお土産屋さんが並んでいるので、自分の興味に照らし合わせて、多くの方が利用されていました。日曜日は営業時間が短いことに注意してください。

そんな小さな街ですが、スーパーマーケットは至る所にあります。ASDA だけでなく、少し歩けば Co-op、Tesco もありました。用途に合わせて利用されると良いと思います。ただ、物価は高いです。行った一週間でボディソープがシュリンクフレージョンを起こしていた時は悲しくなりました。

遠出

遠出の定義にもよりますが、この中間報告の提出締め切りが渡航してから 1 ヶ月後であることを踏まえると、長期休暇でもない限り他国(遠くの都市)に行くことは難しいと思います。要因としては大きく分けて二つあります。

一つ目は、授業があるということです。勿論留学生なので、現地の大学生よりかは毎週のコマ数は少ないですが、それでも基本的に週 3 日か 4 日は大学に行くこととなります。運良く月・火・水などと固まってくると良いのですが、物事そうは上手く運びません。加えて、上記の通り予習も行うのであれば尚更です。ただし、土日は確定で休みなので、どうしてもというのであれば工夫をすれば可能な範疇だと思います。

二つ目は、足がないということです。足と言っても様々ですが、その運行状況から公

公共交通機関に過度な期待をするのは難しいです。また、自転車を購入するのも一つですが、ご自身の留学計画と照らし合わせながらが良いかと思われます。いずれにせよ、下調べが必要になることは確かです。余談ですが、自転車ショップは十二分にあるので購入方法は気にしなくて大丈夫です。

春から渡航される方は、3月中旬から4月上旬にかけて三週間ほどイースター休暇と呼ばれる長期休みがあります。遠出をするならまたとない機会です。留学生課の方に旅行届を提出することをお忘れなきよう。

その他

ご存じかもしれませんが、立地としては北海道よりも北にあります。しかし、気候の問題で、時期にもよりますが北海道よりも暖かいです。私は1月から渡英しましたが、最低気温が氷点下を切らないくらいで、ダウンジャケットを着て行けば十分かと思いません。気温に関しては然程問題ないのですが、曇り・雨の日が多く、基本は曇りで週に2日くらい雨が降るので風雨対策は必要でした。3週間ほど過ごしてみて、晴れた日は3日でした。晴れた日の夜は星が綺麗で感動してしまいました。

当たり前ですが、冬の日照時間は短く、朝は八時に明るくなり 18 時にもなれば暗くなってしまいます。私の寮棟に関しては、平日は皆さん 21 時には静かになっていました。自ら崩さない限り、健康的な生活を送れると思います。

飛行機に関してですが、乗り継ぎをされる場合は余裕を持つのが良いと思います。私の場合、ヒースロー空港(ロンドン)にて 1 時間 40 分で乗り継ぎをしました。航空会社の人は1時間半あれば十分だと言っていたのですが、当然のことながら、そこには飛行機を降りる時間や有人ゲートを通る時間は加算されていません。私は荷物検査でも引っかかってしまい、焦りました。様々な人に状況を説明し協力をしてもらう良い機会とも言えますが、結果論でしかありません。避けられる災難は準備することもできるという意味です。

大学には浄水器がありました。浄水器に限らず、商品には 99.9%除菌を売りにしているものが多くあります。お陰様でコロナにはかかりませんでした。

セミナーのグループワークでは、論文を読む機会もありました。学部生の授業で扱うような論文は極端なものが多いので内容理解に苦労はしませんが、一緒にグループを組んだ人の読む速さには驚きました。「大学」の項目で予習について触れた意図はここにあります。グループワークの方法として分業スタイルを取ることが多いようなので、嫌われたくないのであれば予習をするという方法が一番被害が少ないかと思えます。

写真1 寮の写真



写真2 大学でハリポッターの撮影に使われたといわれる場所



写真3 ヨーク・ミンスターとなにか



写真4 寮に住み着いている猫

